

6ヶ月以内にMDMを導入するには

効率よく迅速に導入を進めるための8つのステップ

マスターデータ管理 (MDM) を導入すれば、全社のデータを一元化して、真のデジタルトランスフォーメーションを実現することができます。ただし、マスターデータ管理から最大の効果を得るためには、事業目標、ステークホルダーへの根回し、テストなどを考慮してプロジェクトを進行しなければなりません。そのためには、単なるソフトウェアの導入を超える計画と準備が必要になります。

以下のシンプルな8つのプロセスに集中すれば、人材、プロセス、コミュニケーションなど、MDMプロジェクトの成功に不可欠な実践項目を適切に管理できます。ソリューションの実装にかかる期間をできる限り短縮し、業務効率を改善して、素早く成果を出すことが可能になるのです。また、大きなミスにより予算を大幅に超過したり、納期の遅れやプロジェクト範囲の大幅な変更を強いられることを避けることができます。

プロジェクト準備

1 目標設定



最初のステップは、明確な目標を設定することです。この目標には、事業目標や技術目標（またはその両方）などがあります。また、実践項目の優先順位、リソースの制約、データ/プロセスの相関関係（依存関係）など、プロジェクトの障害になりそうなことも洗い出して

おく必要があります。SMARTの法則（具体的であること、測定可能であること、達成可能であること、現実的であること、期限を設定すること）に沿って目標を設定できれば、導入プロジェクトの成功の可能性が高まります。

2 最適なチーム編成



まず、データ作成者、管理者、ユーザーを特定し、それぞれの役割、時間的な制約、最終目標を把握することから始めます。同時に、マーケティング部、営業部、カスタマーサポート、パートナーなど、様々なグループとの連携体制を確立する必要があります。各グループ、

および組織の各階層におけるプロジェクト協力者を特定し、スムーズな意思決定やエスカレーション（下から上への意見や状況の伝達）の体制を整えておきましょう。

3 プロセス考案



プロジェクトを始動した後に再編成すると、高額なコストとリソースがかかるため、プロジェクト始動前にしっかりとプロセスを確立しておくことが必要です。ステークホルダーと協力し、現在の業務フローにおけるボトルネック、ギャップ、改善のチャンスなどを特定して

おきます。MDMの管轄外にあるがMDMに必要となるかもしれないデジタルアセットなども、忘れずに考慮することが必要です。これにはMDMに関連する契約書、法的文書、安全データシートなどが含まれます。

4 データ要件の特定



他のシステムや社外の機関への伝送が必要なデータを特定します。これにはMDMにインポートして作成しなければならないデータも含まれます。試験的に運用するためのサンプルデータも確保するようにしてくだ

さい。また、情報源を特定して、現在の問題点や改善が必要な箇所を洗い出します。データやデータ関連のルールをはじめ、データの制約、アクセシビリティ、オーナーシップ、タイムスタンプを作成する上で必要になるデータを考えて含めてください。

5 インフラストラクチャの計画



MDMを導入する際には、インフラストラクチャの計画と実装を忘れずに。また、明確なインスタンス戦略を立て、開発、品質保証、テスト、本稼働に必要なリソースを特定します。例えば、開発プラットフォームは必要でも、テストプラットフォームは不要かもしれません。開発がかなり進んだ段階で、ソフトウェアに対応するを考慮していなかったことが判明し、プロジェクトに遅れが生じることが多いので気をつけましょう。

実装

6 プロジェクト範囲の文書化



多くのITプロジェクトが失敗に終わるのは、適切なプロジェクト範囲を基盤にしていないからです。プロジェクト範囲の設定を怠ると、なんどもやり直しを繰り返してコストが嵩み、ビジネスユーザーの協力を得られなくなります。タイムライン、役割、責務、データモ

デルなどを含め、曖昧なところのない、正確で明瞭なプロジェクト範囲を設定しましょう。プロジェクト範囲には、様々な活動やリソースをまとめ、進捗状況、問題、リスクを追跡するプロジェクトマネージャーについても言及しておく必要があります。

7 綿密なコミュニケーションがカギ



プロジェクトを進める際には、会議、Eメールでの報告、動画などの様々な方法を通して綿密なコミュニケーションを行う必要があります。マイルストーン、進捗レポート、デモンストレーションなども共有すると良いでしょう。様々な方法による定期的なコミュニケーションを通して、プロジェクトチームはもちろん、データユーザー、エグゼクティブ、サプライヤーなど、プロジェクトのステークホルダー全員の足並みを揃えることが大切です。

コミュニケーション体制を確立しておけば、新しい要件やベンチマークなどのプロジェクト範囲の変更も伝えやすくなります。

8 十分なテスト期間



インタフェースの構築とテスト、データ移行などにかかる時間や手間を低く見積もらないように注意してください。事前に定義されたユースケースやデータに従って、包括的なテスト計画を立てるようにしましょう。エラーのリスクを抑えるためには、MDMソリューションのデータフローをできるだけシンプルにしなければなりません。テスト環境から本番環境にスムーズに移行できるよう、明確なデータ移行戦略を策定しておく必要があります。

効率的な導入プロセス

世界一流のプラットフォームの導入を成功させれば、組織やユーザーにとって大きなメリットになります。準備段階から実装段階にいたるまで、上記のベストプラクティスを実践すれば、Stibo Systemsの「ビジネスファースト」のアプローチで測定可能な成果を出し、他社との差別化を図ることが可能になります。

MDMプログラムの導入を成功させるための詳しい方法については、Eメール (info@stibosystems.com) でお気軽にお問い合わせください。公式ウェブサイト (stibosystems.com) でも詳細をご覧ください。

About Stibo Systems

Stibo Systems, the master data management company, is the trusted source of MDM solutions based on a unique business-first, people-centric approach. Our solutions are the driving force behind forward-thinking companies around the world that have unlocked the strategic value of their master data; empowering them to improve the customer experience, drive innovation and growth, and create an essential foundation for digital transformation. Stibo Systems is a privately held subsidiary of the Stibo A/S group, founded in 1794, and is headquartered in Aarhus, Denmark. For more information, visit stibosystems.com.